静岡空港 開港

1番機 福岡便離陸

石川嘉延知事の開港宣言を受け、くす玉を開く出席者ら＝4日午前7時30分、静岡空港

1番機の日航機が福岡へ飛び立ち、開港した静岡空港
＝4日午前8時54分（本社ヘリ「ジェリコ1号」から）

本県の空の玄関となる富士山静岡空港が4日、開港した。旅客ターミナルビルで国や県、地元市町、航空会社の関係者ら約100人が出席して開港式を行い、午前9時前には1番機として日本航空の福岡便が、ほぼ満員の乗客を乗せて飛び立った。

＝関連記事2、3面へ

「未来開く」知事が宣言

石川嘉延知事はあいさつで「きょうの天候は曇り空にもかかわらず、視界良好で、静岡空港の将来を暗示している」と強調。浜井卓男県議会議長や松浦康男富士山静岡空港利用促進協議会会長が祝辞を述べた。

「380万県民の夢と期待を担い、本県の明るい未来を開く富士山静岡空港の開港を宣言します」。石川知事による開港宣言に合わせ、県内選出国会議員や就航した航空会社の代表がくす玉を開いて開港を祝った。

静岡空港には日本航空と全日空、韓国のアシアナ航空、大韓航空、中国東方航空の国内外5社が開港当初から札幌（新千歳）、福岡、沖縄（那覇）と韓国ソウル（仁川）、中国上海の5路線に定期便を就航。鈴与が設立したフジドリームエアラインズ（FDA）は7月23日から、小松（石川県）、熊本、鹿児島の3路線で運航開始する。

1番機出発の後も、福岡やソウル、札幌からの初便が次々と到着した。福岡からの初便で、福岡県静岡交流団の団長として、麻生渡知事が到着。石川知事の出迎えを受け、「見事な空港だと感じた。心からお祝い申し上げる。結ばれた空路を使って大いに交流し、互いに繁栄していきたい」と述べた。

この日は台湾などへのチャーター便を含む22便が離着陸を繰り返す予定で、各便の出発式や歓迎式も終日行われる。

富士山静岡空港 県が牧之原市と島田市にまたがる台地に建設した地方管理空港。建設地決定から22年の歳月と総事業費約1900億円をかけて完成した。本体面積は190㌶。2500㍍の滑走路を備えるが、空港西側の私有地に制限を超える立ち木が残されていた問題で、開港当初は滑走路を300㍍短縮して暫定運用される。秋ごろまでには完全運用される見通し。空港の管理は県が指定した民間会社が当たる。用地買収の難航や立ち木問題で3度、開港目標が延期された。県の需要予測では年間利用者138万人を見込む。

静岡新聞

©静岡新聞社 無断複製転載を禁じます